

1998年2月

JSQCニュース No.202

発行 社団法人 日本品質管理学会 東京都杉並区高円寺南1-2-1 勘日本科学技術連盟東高円寺ビル内 電話 03 (5378) 1506
ホームページ：http://jsqc.i-juse.co.jp

法制度の変革と製品安全

中央大学 宮村 鐵夫

1. はじめに

新民事訴訟法の施行、製品安全規制の見直しの動きなどについて紹介し、製品安全についての自己責任・情報開示の重要性が一層鮮明になってきていることについて喚起したい。

2. 新民事訴訟法と文書管理

本年1月1日から70年ぶりに全面改訂された新民事訴訟法が施行され、1995年7月1日施行の製造物責任法と関連して、製造物責任を巡る司法による紛争解決に大きな変化が予想される。

民事訴訟法改訂の趣旨は、
①証拠が一方の当事者に偏在する事件における証拠収集手段の充実
②争点等の整理に向けて当事者が十分な訴訟準備を可能にする証拠収集手段の充実

である。このため、
①文書提出義務の範囲の拡充
②当事者照会制度の創設
による証拠収集手段充実がはかられ、文書管理が一層重要になってきている。

3. 文書提出義務範囲の拡充

文書提出義務範囲については、
①文書提出義務の範囲の拡大
②文書の一部の提出命令
③文書特定のための開示請求手段
④イン・カメラ手続の新設
⑤文書提出命令違反の効果
について改訂・新設が行われ、旧法と考え方が大きく変化している。
例えば、文書について一般的提出義務

を定め、提出を免れる場合を

- ①刑事訴追や有罪判決を受けるおそれのある事項が記載されているとき
- ②職務上知り得た事実で黙秘すべき事項、及び技術又は職業の秘密に関する事項であって、黙秘の義務が免除されていないものが記載されているとき
- ③専ら文書の所持者の利用に供するための文書

とするネガティブ方式で規定し、旧法のポジティブ方式と異なっている。

したがって、ISO9000シリーズの品質システムに基づき作成・保管している文書は提出義務があり、廃棄手順の透明化と厳格な履行を含む文書管理が一層重要になってくる。

4. 当事者照会制度の創設

今回新しく創設された制度が、アメリカのディスカバリーに類似した当事者照会制度である。これは、
①当事者が、②主張又は立証を準備するために必要な事項について、③相当の期間をさだめて、④相手側に回答を、⑤文書で紹介できる制度である。 除外理由については、下記の項目

- ①具体的又は個別でない場合
- ②相手方を侮辱し、又は困惑させる照会及び既にした照会と重複する場合
- ③意見を求める照会
- ④相手方が回答するために不相当な費用または時間を要する照会
- ⑤証言拒絶事由と同様の事由のある事実についての照会

を定めている。この制度を活用した当事者間の事前準備により裁判の争点を明確にして集中審理を行い、裁判の迅速化を図ることを狙いとしている。

5. 製品安全規制の見直し

通商産業省では、昨年3月より商務流通審議官の私的研究会として製品安全研究会(筆者が座長)を設置し、電気用品取締法など通商産業省所管4法の基本的な見直しの方向について検討を進めている。最終的なまとめは本年2月に行う予定であるが、今までに

- ①技術基準を性能規定化し、構造・形状などへの基準の具体化は、JISなどを活用し、製造業者自らの責任で実施
- ②モニタリング、製品事故情報の公表、回収などの事後規制についての処置の拡充
- ③検査のワンストップサービスの実現などが議論にのぼっている。

すなわち、製品安全に関して企業自らの主体的な取り組みを求め、安全にかかわる問題が発生した場合には、行政当局が強制回収命令などの事後処置を迅速に行うというように、従来の事前規制から事後規制へ重点を移行する方向である。

6. おわりに

法規制の見直しの下で、製品安全についても作り手のアカウントビリティが重要になってきている。したがって、製品安全の基本方針と製品・技術開発への浸透・実践への具体化が急務となってきている。

「品質」誌、投稿論文の募集!

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、クオリティーレポート、レター、QCサロンです。

「品質」誌編集委員会

私の提言

新たなクオリティの模索

富士ゼロックス株式会社
NX運動推進部 吉澤 正孝



昨今、日本経済の閉塞観が漂っている。マクロ的には、バブル期に行ったことの清算をしているといわれている。東洋の陰陽思想でないが、陽の極から陰の極に向かって反転作用がおきているのであろうか。人間が営む社会も巨大なるシステムであり、小さな揺れの影響が時として結果を大きくばらつかせるものである。現在の閉塞観はバブル期の清算もあろうが、金融・サービス業に対する自由化の流れが根底にあることも理解しておく必要がある。これらの潮流は、第二次産業に対しても新たなビジネスの機会でもあるが、金融・サービス業だけでなく広く教育、医療、公的サービスも含めての自由競争時代が到来しつつあるものと理解している。

日本の品質管理分野における歴史を振り返ってみると、鉄鋼の自由化、自動車や建設機械の自由化、そして電気業界の自由化また70年代に訪れた二度のオイルショックなどと業種、形態は変われど何度となく同様な危機がおとずれ、それに対応してきた。それには、技術、マネジメントなど企業を運営する上でのさまざまな工夫がなされ、素晴らしい方法が開発され、実際に応用され成果を生んできた。

現在の品質管理に対する期待は、これらの潮流にたいして、新たな答えを要求しているものとする。今まで得られた知識を基本に新たな品質経営の方法の概念とそれを展開する方法論の確立が必要な時期にきていると考えている。すでにアメリカのマルコム・ボルドリッジ賞や、ヨーロッパ品質賞に代表される、国家レベルの品質賞の基本コンセプトは、品質に対するパラダイムシフトを起こしている。

企業を取りまくステーク・ホルダーの面から価値を見だし提供し、如何にその満足度を向上させるかの視点にいたれた経営としてのクオリティ(品物の質でない)の向上に取り組んでいる。今後、これらを参考にするとともに、今まで創造されたマネジメントに関する方法などを原点にもどり見直し、要求に答える必要があると考えている。

行 事 案 内

●第68回シンポジウム(本部)
日 時：3月6日(金)9時25分～16時30分
会 場：日本科学技術連盟東高円寺ビル
テーマ：「環境と品質」－ISO14000の進展とその活用－
参加費：会 員4000円(締切後4500円)
非会員6000円(締切後6500円)
申込方法：「品質」誌 1月号に掲載の開催案内・参加申込書で申込み下さい。
●第65回講演会(関西支部)
テーマ：品質管理の原点を追求する企業に学ぶ
日 時：3月13日(金)14時～17時
会 場：大阪・天満研究センター
(大阪市北区錦町2-21)
講演者：岩崎日出男氏(近畿大学)
西村 治雄氏(松下電器産業㈱)
定 員：150人
参加費：会 員2500円(締切後3500円)
非会員3500円(締切後4500円)

申込締切：3月2日(月)(ただし、定員締切)
申込方法：「品質」誌1月号に掲載の開催案内・参加申込書で申込み下さい。
●第58回研究発表会・本部(発表募集)
開催日時：1998年5月30日(土)10時30～17時
会 場：日本科学技術連盟 本部
(1)申込期限

発表申込および発表要旨締切 3月27日(金)	200字詰原稿用紙1枚以内またはワープロで200字以内 発表申込書が着き次第要旨「原稿の書き方」等を送付します。
予稿原稿締切 5月7日(木)	(22字×40行×2段)×4枚以内
参加申込締切 5月22日(金)	会員には4月下旬に研究発表会ご案内(付)参加申込書を送付します。(注)

(注)非会員の方は、FAX等で本部事務局まで参加申込書をご請求下さい。
(2)研究発表・事例発表の申込方法
会員No.氏名(発表者には○印を記入)、

勤務先、電話番号、連絡先を明記のうえ、発表要旨を添えて上記期日までに事務局宛送付してください。
③参加申込方法
参加申込書に所定の事項をご記入のうえ、本部事務局まで申込みください。
●クオリティバブ(第5回)
日 時：平成10年3月16日(月)(18時～20時30分)
会 場：日本科学技術連盟・東高円寺ビル
テーマ：顧客満足ってどうやるの?
ゲスト：田村 均氏(㈱リコーCS推進室 部長)
会 費：会員、非会員1,500円(含軽食)
申込方法：FAXまたは郵便で氏名、所属、連絡先、電話・FAX番号を記し本部宛(FAX03-5378-1507)申込み下さい。定員30名まで受付。
(行事案内 裏面につづく)

論文投稿のおすすめ

本学会編集委員会では下記の投稿区分にて会員諸兄の投稿をお待ちしております。投稿論文は本学会の存続をかけるものです。何卒よろしくご協力下さい。

- 1) 報文
- 品質または品質管理に関して、理論上もしくは応用上独創的な内容を含む完成された研究論文。
- 2) 技術ノート
- 品質または品質管理に関する手法ならびにその応用について、新しく価値ある内容を含む研究論文。
- 3) 調査研究論文
- 品質または品質管理に関して、実験・実施・調査等実証的方法により得られた価値ある新しい事実・知見を含む研究論文。
- 4) 応用研究論文
- 品質または品質管理に関する手法、考え方の適用事例について、その適用プロセスならびに結果を深く分析することにより得られた価値ある新たな事実・知見等を含む研究論文。この場合の適用事例としては一事業所、一工程等に対するものでも可です。
- 5) 投稿論説
- 品質または品質管理に関する手法、考え方等に関し、独創的な命題を提起し論証した研究論文。
- 6) クオリティーレポート
- 品質または品質管理に関して有益な情報を含む報告。たとえば、手法や考え方を有効活用した事例、適用対象に新規性がある事例、実用性を有する管理手法の開発ストーリー、ヒット商品の開発ストーリー、海外のQC/TQMの実践状況等の報告等です。(品質誌編集委員会)

第229回事業所見学会(関西支部)ルポ
日清食品・滋賀工場

去る7月10日(木)、第229回事業所見学会が、即席麺のトップメーカー日清食品㈱滋賀工場において、「PL法に向けた品質管理について一日清食品のPL対策を中心として」をテーマに54名の参加のもと開催された。即席麺は、今や国内で年間52億食、世界で350～400億食が消費される巨大マーケットであり、メーカーも世界250社にのぼるそうである。その中でも日清食品は、即席麺のパイオニアであり、リーディングカンパニーとして知られている。当日は西日本向け生産拠点である滋賀工場の製造ラインを見学させて頂いた。

滋賀工場では、年間5億5千万食、繁忙期には1日約300万食もの即席麺を、製麺、カップ充填、包装に至るまでの全工程を高度に自動化した生産ラインにより製造しているが、そのスピードは驚くべきものであった。そのラインにも様々な工夫がこらされており、例えばカップに充填工程では、出来上がった麺をカップに充填するのではなく、麺にカップをかぶせるという「逆転の発想」が活かされていた。

PL対策としては、特に製造上の欠陥対

研究会だより (11月・12月)

- ◆品質教育研究会 (11月26日／12月18日)
1. 第27年度の研究テーマと役割分担
2. 国際的エンジニア教育検討(委)への対応
3. エンジニア教育について
4. 大学・高专における品質管理教育の体系化
5. 人材開発マネジメントシステムのパフォーマンス評価
- ◆テクノメトリックス研究会 (12月13日)
1. トピックスの紹介
2. 「グラフィカルモデリング入門 (仮称)」の編集について
3. 「多変量解析Q&A(仮称)」について
- ◆GLQM事例研究会 (12月13日)
1. 各グループ報告書作成状況の報告
2. 「品質」誌への投稿について
- ◆感性工学研究会 (11月7日／12月1日)
1. 感性工学に関する専門家アンケート調査結果
2. 感性豊かな人材の育て方
3. 感性図書データベースについて
4. 感性とQFD
5. 感性豊かな人材の育て方
6. 従業員満足度向上に関係する研究
7. 感性図書データベースについて
- ◆TQMの医療への展開研究会 (11月24日)
1. 行政から見た医療の質と改善の仮題
2. 麻生飯塚病院のTQMの取り組み
3. 緊急医療の質の改善と指標について
- ――米国の取り組みのレビュー――

策が印象に残った。まず、エビ、肉などの具材については、約50人の体制で「異物がなにか」等全品の受入れ検査を徹底しているとのこと。また、製造ラインでは各オペレーターが麺の厚み、具材の量の確認、日付の印刷、包装状態等各段階毎の品質基準を満足しているのかチェックを行っている他、週に1回食品検査センターにおける品質統一のためのチェックが為されている。さらに日清食品の品質管理における特徴的なものとして強調されていたのが、品質基準通りに工場で製品が作られているかどうかの査察業務のみを受け持つ、NICセンター (Nissin Inspection Control Center) と呼ばれる組織の存在である。

数多くのヒット商品を出されている日清食品であるが、それらもこのような徹底した品質管理に裏打ちされてこそ存在するのだということを改めて認識させられた有意義な見学会であった。

中村博一 (関西電力)

第230回事業所見学会 (本部) ルポ
いすゞ自動車・大和工場

さる7月22日(火)、第230回事業所見学会が、いすゞ自動車㈱大和工場で行われた。今回のテーマは「現場におけるTQC活動」で、文字通り大和工場の現場での活動状況の紹介を受けた。

見学会では①同工場の概要、活動の特徴の説明、②工場見学、③改善事例の紹介、④質疑応答を行った。

いすゞ自動車㈱は1937年に創業し、本年度60周年を迎えるトラック、バスの大

4. 1/24WS「病院QCサークルの現状と課題」の企画について

研究会近況報告

感性工学研究会 (主査 長沢伸也)

本研究会は、公募研究会として1997年4月に発足し、現在21名が登録している。1997年では、4月以降、8月を除いて毎月開催し、以下の活動を行っている。

- ①会員の感性工学へのアプローチの紹介
- ：長沢伸也「感性工学と品質管理」、国島徹也「従業員満足度に関するアンケート解析」(5月)、池山豊「シャンプー・コンディショナーによる官能評価実験」、高橋弘之「企業の感性評価に関する研究」、羽生田和志「個人差を考慮した感性品質の評価方法に関する研究」(6月)、岩崎謙次「テキスタイルデザインと感性」、三輪高志「感性品質の調査に用いる感性用語抽出に関する研究」(9月)、岡田康利「銀塩写真の官能評価の問題点」、石井宏一「感性品質の解析方法に関する研究」(10月)、坏雅博「感性工学の技術予測アンケート結果」、田村照一「感性豊かな人材の育て方」(11月)、高須久「感性とQFD」、栗原邦夫「感性豊かな人材の育て方」、桜井圭「従業員満足度向上に関する研究」(12月)が発表され、活発な討論が行われた。
- ②感性工学関連文献の調査
- ：「感性」が書名にある書籍約200冊を会員が分担して読み、データベースを作成している。
- ③第一人者による講演
- ：7月に信州大学感性工学科清水義雄教授に講演戴いた。

手企業で、工場は川崎、藤沢、大和工場など国内に5工場を持つ。大和工場では、中型トラックのキャビンの生産を分担しているのと、海外向けのKD部品の梱包等を行っている。

活動の特徴としては、品質活動では、91年10月にPM優秀賞を受賞し、93年10月には継続賞を受賞している。昨年はISO9002を取得するなど常日頃から品質を重視したたゆまぬ努力が、随所に感じられる。安全面では連続無災害記録の更新を続けており、方針に掲げていた安全と品質の重視が、実施されていることが伺える。

「常日頃から良いものを安くできないか」という考えで改善活動にも熱心に取り組まれており、従業員が参加して自分たちの知恵・創造力を活かした「からくり」と呼ばれている改善に取り組まれている。この「からくり」は職場活性の面にも活かされ、「楽しく、ほがらかにやろう」との趣旨で、職場の休息所にも「からくり」を取り入れたホットするコーナーなどを設け、心和む工夫がされていた。

車体ラインでは、自動化率を高めた数種類のキャビン生産。 機装ラインでは、部品のタイムリーな搬送、間違いのないピッキングなどいろいろな工夫「からくり」改善が見られ、また大型のAGVを用いての重要部品の搬送&自動組み付けや、自社製作のAGVによる工夫した部品供給など随所に感心させられた。

最後に、インライン検査の改善事例について発表があり、以降活発に質疑応答が行われ終了した。

行 事 案 内

●第66回講演会(中部支部)

日 時：3月17日(火)9時50分～16時

会 場：中区役所朝日生命共同ビル
名古屋市中区栄4-1-8

内 容：魅力的商品の開発とTQM(仮題)
諸戸脩三氏アイシン・エイ・ダブリュ㈱名誉技術顧問
智業と企業との“協働”で変わる新・産業社会の構造(仮題)
公文俊平氏国際大学グローバル・コミュニケーションセンター所長
マーケティングと品質管理と新製品開発(仮題)
長沢伸也氏立命館大学教授

参加費：会員2,500円 非会員3,500円

定 員：200名

申込締切：3月9日(月)、定員になり次第締切

申込方法：中部支部宛FAXで会員No、氏名、勤務先、所在地、所属、電話Noを明記して申込みください。

●第69回シンポジウム(関西支部)

「ブレイクスルー思考」

日 時：5月11日(月) 13時～17時

会 場：大阪科学技術センター 402号室
大阪市西区鞆本町1-8-4

内 容：基調講演
日比野 省三氏
(中京大学 教授 社会学部)
事例発表
三木 義男氏 (東陶機器㈱)
尾形 良征氏 (三菱電機㈱)

定 員：150名

参加費：会場4,000円 (締切後4,500円)
非会員6,000円 (締切後6,500円)

申込締切：4月23日(木)

申込方法：同封の参加申込書を郵送又はファックスでお申込ください。

●第234回事業所見学会 (関西支部)

見学先：放射光利用研究促進機構
(㈱高輝度光科学研究センター)

日 時：4月9日(木)
13時30分～16時30分

テーマ：これからの科学を担う夢の光
「放射光」の研究 ―Spring8―

定 員：40名 申込締切3月30日(月)

参加費：会員2,000円、非会員3,000円

申込方法：同封の参加申込書を郵送又はファックスでお申込みください。

いすゞ自動車㈱の人を尊重した、安全と心和むような配慮、創造性を活かした改善活動など、活性化がうまく進められていることを見学出来、大変有意義な見学会であった。大石 俊春(日産自動車)

各種行事の申込先

- 本部
- 〒166-0003 東京都杉並区高円寺南1-2-1, (㈱日本科学技術連盟内、(㈱日本品質管理学会事務局、電話03(5378)1506 FAX03(5378)1507
- 中部支部
- 〒460-0008 名古屋市中区栄2-6-12, 白川ビル, (㈱日本規格協会名古屋支部内、(㈱日本品質管理学会中部支部、電話052(221)8318, FAX052(203)4806
- 関西支部
- 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-25, 中央電気倶楽部, (㈱日本科学技術連盟内、(㈱日本品質管理学会関西支部、電話06(341)4627, FAX06(341)4615